

令和 7 年度

鹿嶋市 各部選定施策 事業評価シート

【中間面談による実施】

政策企画部政策推進課

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	R7重①	担当課	DX行革推進室	事業名	DXの推進
施策の位置づけ	施策5-2 スマートで持続可能なまちをつくる 施策の方向性 (2) スマートな行政運営 取組 ①スマート自治体の実現	市長政策			

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
活動	・電子申請システムの運用 ・対象手続きを順次拡充、利用可能手続を増やす		研修、対象業務洗い出し	・オンライン研修の開催 ・予約・決済での活用協議	○
産出	オンライン手続の範囲拡大による窓口業務のオンライン化が進む		対象手続きの拡充	・R7上期新規作成フォーム220手続増加	○
活動	・RPA・AI-OCRの運用 ・RPAで効果が見込まれる業務を拡充し、省力化業務を増加する		成果実績の共有、フロー整理による対象業務の拡充調整	・2業務が新規稼働 ・2業務で構築準備中	○
産出	定型作業時間が削減、業務効率化が進む		定型業務の自動化	RPA対象業務が、臨時稼働分も含め11基盤まで増加	○
活動	・生成AI、AI文字起こし基盤の運用 ・使いこなせる人材を育成する		研修、活用事例共有による全庁普及	・生成AI説明会開催 ・活用事例共有、利用範囲拡大中	○
産出	各種基盤の活用範囲拡大により、文書作成やデータ入力の自動化が促進される		有償汎用基盤以外に全庁向けの生成AI基盤を開放	・全庁向け生成AI基盤開放 ・LogoAI実証実施	○
活動	・ノーコードツールの運用 ・業務フローを改善する業務アプリを作成する		成果実績の共有、フロー整理による対象業務の拡充調整	・全庁向け説明会開催 ・本番稼働検討のためテスト環境を開放中	○
産出	・各種データの効果的な管理、分析可能な基盤が整備される ・データ活用環境が整備される		定型業務の自動化	上期で26の新規アプリが稼働開始（テストアプリ除く）	○

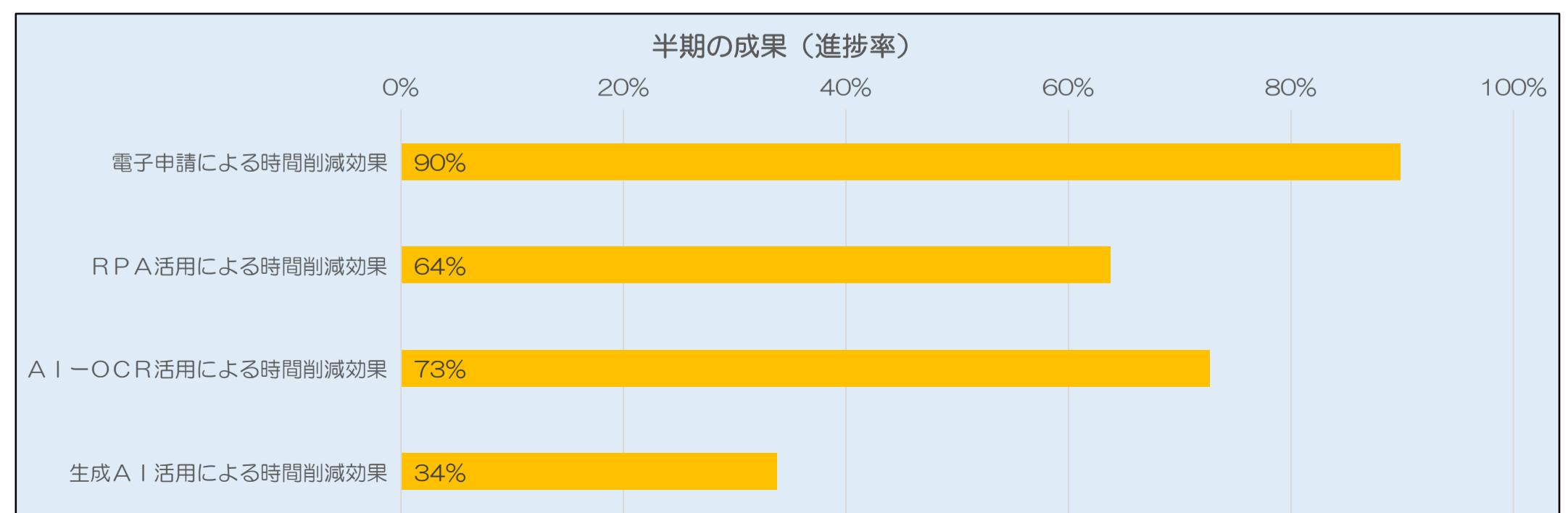
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
RPAの運用（改善による効果）	基幹業務系ネットワークのみで運用中	R2年度公募調達仕様が閉鎖システムのみでの活用想定であった	内部情報系での活用を目的に対象ネットワーク拡大を検討する

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績（年度末計測のため前年未数値）	進捗率
①	電子申請による時間削減効果	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	-1,980	-1,779	90%
②	RPA活用による時間削減効果	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	-1,100	-701	64%
③	AI-OCR活用による時間削減効果	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	-297	-216	73%
④	生成AI活用による時間削減効果	↑	フロー指標 単年度増減型	直接成果	-2,200	-744	34%



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

事業全体としてはおおむね計画どおり進捗している。

- ・電子申請 対象手続の拡充が進み、オンライン化が定着しつつある。
- ・RPA 基幹業務システム系で、新規業務追加による効果が拡大したが、構築負荷は高く普及は限定的である。
- ・生成AI 当初計画していた有償基盤調達から、無償の自治体専用基盤（コモンズAI）導入への方針転換により、早期の全庁展開と投資抑制を実現。一方で、汎用無償基盤であるため、ナレッジ蓄積や高度分析など専門的活用には制約が伴う。
- ・ノーコードツール 利用拡大が進むものの、各課の自走的活用には至っておらず、定着に向けた府内支援体制の整備が課題である。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
RPA新規構築は、対象業務の優先度を踏まえて拡充を進め る。また、基幹業務系ネットワークのみでの運用制限につい て、人事・庶務等日常事務領域（情報系ネットワーク）への 拡大を検討する。	活動に「運用対象ネットワーク拡充に向 けた調査・予算要求準備」を追加	今年度中	・財政部局との協議 ・次年度予算要求資料の整備。
生成AIは、全庁開放の背景を受けて、単なる推進から現状 分析と将来に向けた方針検討に重点を移す。	活動に「実態等把握・分析による最適環 境の随時検討」を追加 産出に「分析結果による課題・ニーズの 整理」を追加	今年度中	・利用ログ・アンケート等による実 態把握 ・技術発展状況等の把握（随時）

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

・DX推進に係る各基盤の運用はおおむね順調であるが、所管課の支援負荷が増大しており、今後は伴走支援に依存せず、研修や事例共有を通じた自走型の活用促進が必要である。

・技術進展の早い生成AIなどは、無償基盤活用により投資抑制を図りつつ、活用状況や最新技術動向など注視しながら最適環境を目指す（柔軟な対応が必要）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	R7重②	担当課	広報秘書課	事業名	広報活動 情報発信
施策の位置づけ	施策1－2 多様なライフスタイルを応援する 施策の方向性 多様な働き方・暮らし方の実現 取組 ③多様な交流・かかわりの創出	市長政策			

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	広報紙の新聞折込実績による情報発信	市が在宅の高齢者等に対し、広報紙配布を通じて行政情報を発信している。	広報紙を通じて情報取得手段等のアンケートを取り、現状を把握する。	8月1日から31日の間に、情報取得手段のアンケート調査を実施し、406件の回答があった。現在取りまとめ中である。	○
					○

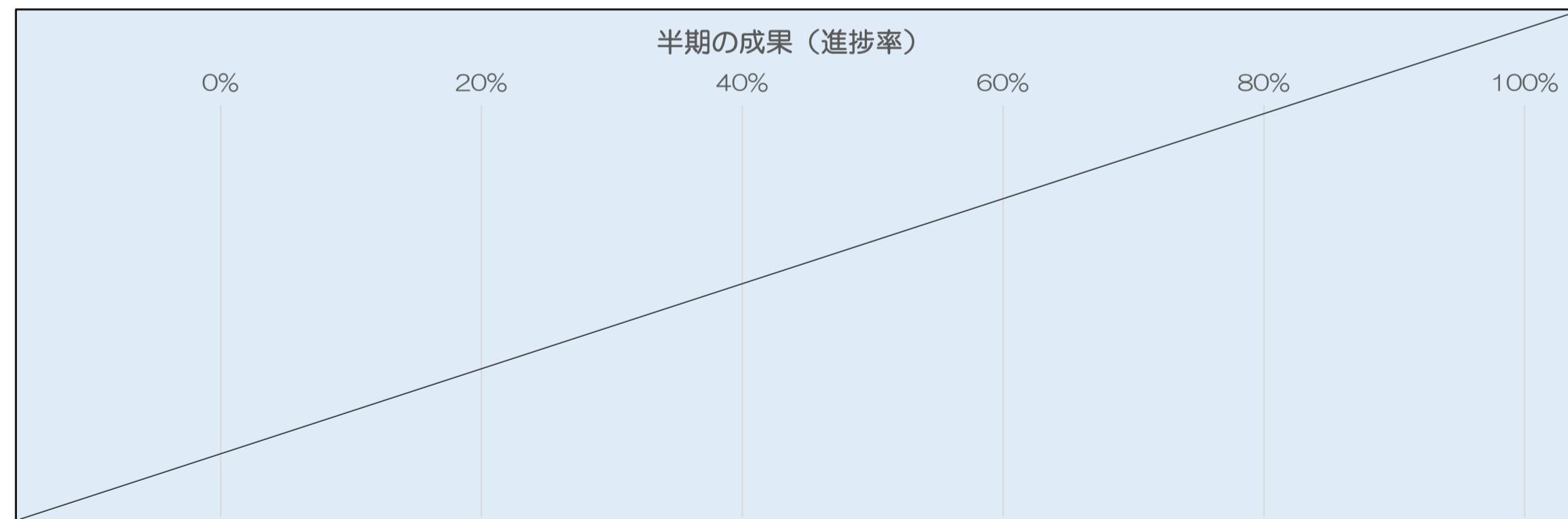
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
市が在宅の高齢者等に対し、広報紙配布を通じて行政情報を発信している。	広報紙の新聞折込を全紙で行い、公共施設やスーパー等にも配架している。	紙媒体である広報紙は、多くの方に情報を伝えられるが、実際の取得手段が把握できていない。	8月1日から31日の間に情報取得手段のアンケート調査を実施した。そのうち、70代以上で104件の回答があり、その結果を基に広報紙の配布方法を検討する。 また、介護長寿課が実施する計画策定に係る高齢者へのアンケートに、広報紙の取得手段などの問い合わせを入れ、現状把握を行う。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①						



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

7月から新聞折込を全紙で行い、公共施設やスーパー等に配架しているものの、取得手段については把握できていないため、8月1日から31日の間に情報取得手段のアンケート調査を実施し、406件の回答があり、現在取りまとめ中である。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
広報に関するアンケート結果や高齢者へのアンケート調査（介護長寿課実施）を基に、広報紙の配布方法等を検討する	なし		

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	R7重③	担当課	総務課	事業名	未利用の市有財産の有効活用及び処分の推進
施策の位置づけ	施策5-2 スマートで持続可能なまちをつくる 施策の方向性 (1) 持続可能な財政運営 取組 ③安定した財源確保と新たな自主財源確保の工夫	市長政策			

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した產出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「產出」の状況 活動とその產出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	產出			
活動	市（総務課）が未利用の市有財産の売払いについてHP、SNS等による情報発信を行う。		各種媒体による情報発信	市HP、市広報紙への掲載	○
産出	事業者等が未利用の市有財産の売払い情報を入手する。		事業者からの問合せ	問合せ件数：1件	○
活動	市（総務課）が未利用の市有財産の売払いについて不動産業界に情報提供を行う。		不動産業界への情報提供	民間不動産サイト等への掲載、県宅地建物取引業協会へのチラシ配布	○
産出	事業者等が未利用の市有財産の売払い情報を入手する。		事業者からの問合せ	問合せ件数：1件	○
活動	市（総務課）がその所管する市有財産の中から未利用の市有財産の活用を募集し、又はあっせんする。		庁舎駐車場におけるキッチンカー等の出店者の募集	毎月の募集	○
産出	事業者等が未利用の市有財産の活用の募集情報及びあっせん情報を入手する。		庁舎駐車場におけるキッチンカー等の出店	出店者数：17者	○
活動	市有財産を所管する課が公有財産管理台帳システム上の情報を最新のものに更新する。		情報の定期的な更新	R6d下期の公有財産異動報告の取りまとめを実施	○
産出	市の全ての部署が未利用の市有財産の情報を公有財産管理台帳システム上で検索できる。		公有財産管理台帳システムの更新	システムの更新を断念。以後はエクセルを使って管理	×

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

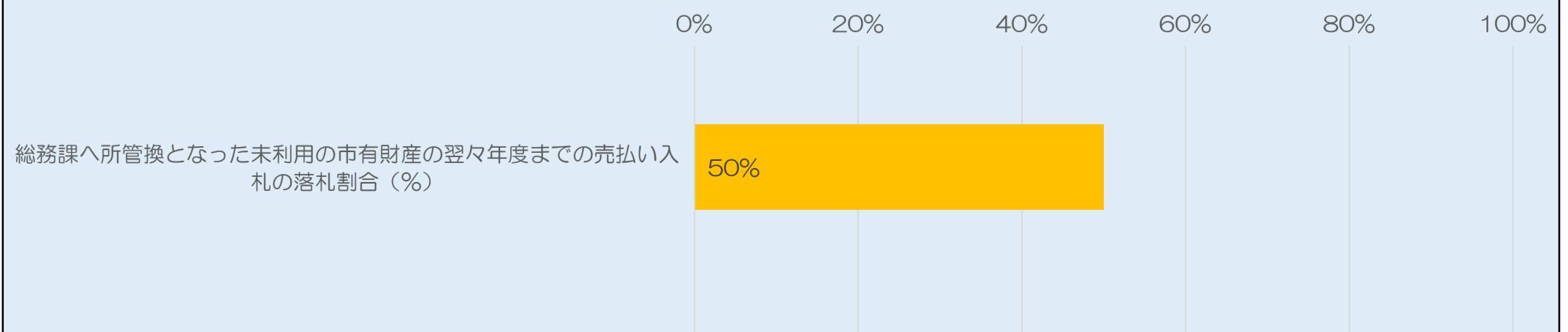
活動または產出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
市の全ての部署が未利用の市有財産の情報を公有財産管理台帳システム上で検索できる。	現在の公有財産管理台帳システムのOSのサポートが令和9年1月で終了するため、当該システムの更新が急務である。 また、当該システムでは、土地や建物の属性情報は確認できるものの、地図情報が確認できないため、視覚的な位置の特定が困難である。	クラウド型に比べ、オンプレミス型の方が安価にシステムを更新できるが、いずれも更新費用が高額である。Kintoneで公有財産管理システムを構築する検証を行ったが、構築は困難であることが分かった。	システムによる管理を断念し、エクセルによる管理を行う。 地図情報の確認は、統合型GISで行うことを検討する。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	総務課へ所管換となった未利用の市有財産の翌々年度までの売払い入札の落札割合（%）	↑	ストック指標 成果累積型	中間成果	50	25	50%
②	未利用の市有財産の活用による収入（庁舎駐車場へのキッチンカー等の出店）（円）	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	611,880	58,595	10%

半期の成果（進捗率）



未利用の市有財産の活用による収入（庁舎駐車場へのキッチンカー等の出店）（円）

10%

ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

①未利用の市有財産の売払い

総務課に所管換をされた施設は、いずれも老朽化が進んでおり、入札を行っても不調に終わる可能性が高い。本年度に売払いを行った旧第1教職員住宅は、予定価格の減額を繰り返し、3回目の入札で落札された。また、旧子育て支援センターの売払いの準備を進める中で、敷地内を通る法定外公共物（里道）の用途廃止が必要となるなど、当初は想定していなかった課題が顕在化し、市有財産の売払いが予定よりも遅れている。

総務課に所管替えされた施設：R6.4.1=R8d末までに売払い 旧第1教職員住宅、旧教職員住宅（売払い保留）

R7.4.1=R9d末までに売払い 旧子育て支援センター、旧平井コミュニティセンター

②未利用の市有財産の活用による収入

これまでに出店実績のある事業者を対象にアンケートを行った。その結果を基に本年7月からキッチンカー等の出店場所や出店料を見直した。見直し直後は出店者が一時的に増加したもの、その後は横ばいの状況が続いている。8月、9月は猛暑日が続いたことから、出店を控える動きがあった可能性がある。今後も出店状況の推移を注視していく。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
売払い直後の転売を防止するため、契約締結の際に用途指定の条項を設けるなど、契約内容の見直しを行う。	特になし。	今年度中	特になし。
茨城県キッチンカー協同組合だけでなく、茨城県内の事業者も加入している千葉県キッチンカー協同組合にも情報を発信し、出店者を募集する。	特になし。	今年度中	特になし。

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

【市有物品の活用】

市バスを含む公用車に有料広告を掲載するため、令和7年11月中に庁内の調整、12月から募集に向け取り組んでいきたい。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	R7重④	担当課	廃棄物対策課	事業名	資源循環
施策の位置づけ	施策4-3 豊かな鹿嶼の海や緑を未来へつなぐ 施策の方向性 (1) 地球環境に配慮した持続可能なまちづくり 取組 ②資源を有効活用する循環型社会への取組	市長政策			

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	プラスチックに係るサーティラーエコノミー（循環経済）の実証事業を行い、資源循環の構築に向けた具体的な方法を協議する。	民間企業と実証事業を実施	・児童生徒への啓発活動 ・回収フェーズの取組みを開始	○	
	サーティラーエコノミーの実現に向けた仕組みが確立される。	商品化までのクローズドループの確立	プラスチック資源の回収及び確保（小中学校・小売店）	○	
	プラスチックの資源循環を効率的に推進するため、新たな処理体制を検討する。	不燃性一般廃棄物処理施設の整備検討	新施設の整備に向け、具体的な検討を進める。（府内協議）	○	
	ごみの分別方法や収集運搬の体制が具現化される。	処理体制の検討に紐づけられた分別の検討	リサイクルの出口を見据えた処理フローの検討（ごみ質組成調査を実施）	×	
	プラスチックの資源循環を効率的に推進するため、新たな処理体制を検討する。	不燃性一般廃棄物処理施設の整備検討	プラスチックを含めた処理工程やコスト等の検討を開始	○	
	新施設に係る整備方針の検討が開始される	処理方針の検討及び新施設の整備方針決定	整備方針の構築に向けた府内調整（基本構想案の作成）	○	

ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

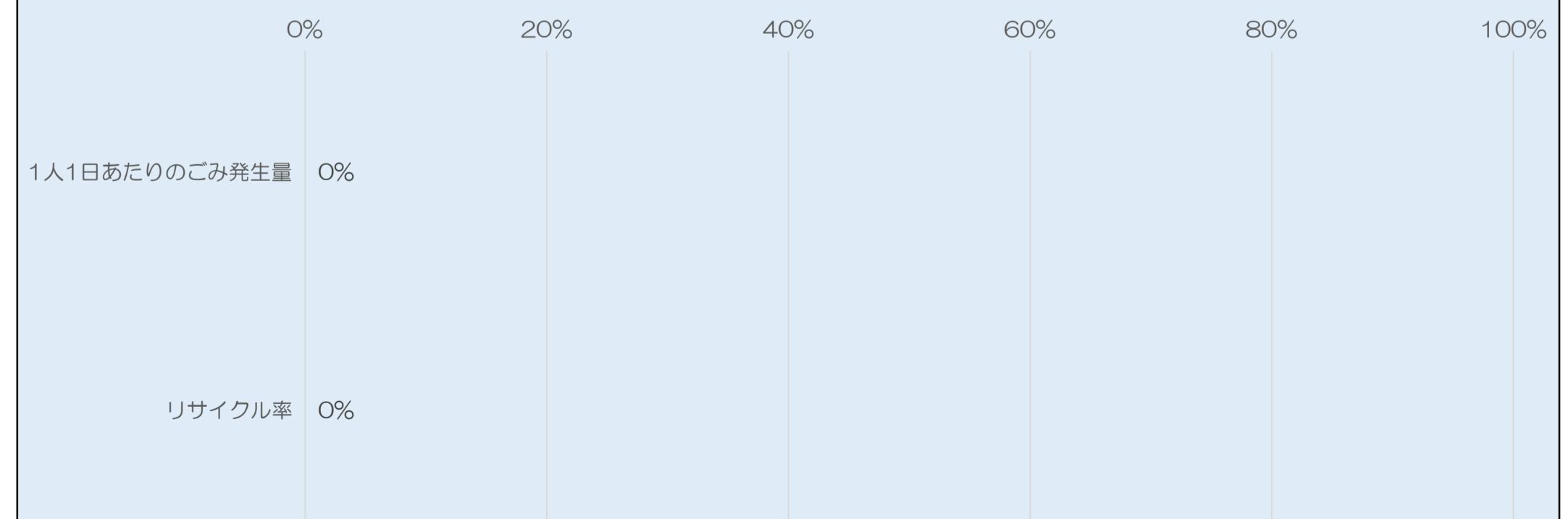
活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
ごみの分別方法や収集運搬の体制が具現化される。	リサイクルシステムの構築に向け、プラスチックを含めた対象製品及び処理方法の検討を進めている。	リサイクルに向けた中間処理方法や運搬などの検討を開始した段階のため	処理可能な範囲が、ごみ分別や運搬方法に影響するため、更なる情報収集と調査・研究を行う。

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	1人1日あたりのごみ発生量	↓	フロー指標 単年度増減型	中間成果	795g／人日	令和6年度実績反映 (来年度公表)	-
②	リサイクル率	↑	フロー指標 単年度増減型	中間成果	—	令和6年度実績反映 (来年度公表)	-

半期の成果（進捗率）



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ・サーキュラーエコノミーのクローズドループをの確立するため、入口となるプラスチック資源の回収を民間事業者と連携し開始した。年度内には、実証実験による一定の成果が得られる見込みである。
 - ・環境省支援事業の不採択により、ごみ質組成調査の実施時期が遅延したが、民間事業者の協力を得て実施した。また、本市におけるサーキュラーエコノミー(CE)ビジョンの作成については、環境省支援事業の採択を受け、予定どおり進んでいる。
 - ・不燃性一般廃棄物処理施設の整備については、現有施設での運営状況や国の方針を踏まえ、早い段階での整備が求められるため、今後のスケジュールや体制構築に対する府内協議を進めている。
- ※本事業を推進する上で重要な「ごみ質組成調査」の分析結果を踏まえ、整備方針を検討しつつ、基本計画に反映させていく。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

本事業における「不燃性一般廃棄物処理施設の整備」については、将来にわたって継続される資源循環施策に大きな影響を及ぼす重要な要素である。また、現有施設の老朽化に伴う過大な投資負担を考慮すると、速やかな方針決定と計画的な施設整備が求められる。このため、組織体制の強化（専属部署の設置）及び優先的な財源確保が必要である。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	R7重⑤	担当課	生活福祉課	事業名	災害時の避難行動要支援者の安全な避難体制の確立
施策の位置づけ	施策5－1 コンパクトで安全なまちをつくる 施策の方向性 (3) 災害に強いまちづくり 取組④ 多様性に配慮した災害対応の充実	市長政策			

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市職員が要支援者の自宅を個別に訪問し避難支援プランの説明をする	浸水想定・土砂災害警戒区域居住者へ制度説明	浸水想定（津波含）・土砂災害警戒区域居住者宅への訪問・説明及び説明書類等の投函。	○
	産出	要支援者が制度理解を深める	説明を受けた要支援者が制度を理解する	説明及び説明書類等により理解した。	○
	活動	市職員が避難支援関係者の集まりの際に制度の周知を図る	ケアマネの会・民児協・相談支援事業所（児童）へ制度を周知する	ケアマネ会総会、民児協総会等での説明を行った。	○
	産出	避難支援等関係者が制度の理解を深める	避難支援関係者の理解が深まる	避難支援関係者に対して説明を行った。	○
	活動	市職員が災害時要配慮者支援班（物資輸送及び連絡等を行う職員と福祉・医療などの専門職によるもの）を組織する	災害が発生した際は生活福祉課職員で対応する	生活福祉課職員の配置により支援体制を確保した。	○
	産出	要支援者が既存の避難所及び福祉避難所に安心して避難できる	生活福祉課職員の配置により要支援者が安心して避難できる	要支援者が既存の避難所等に安心して避難できる体制を整えている。	○
	活動	市が福祉避難所等への職員配置体制を確立する	福祉避難所の現状を把握する	市内福祉避難所を訪問し現状確認を行った。	○
	産出	市と福祉避難所設置運営に係る協定締結団体とが普段から連携することで、要支援者が安心して避難に備えることができる	福祉避難所の現状を把握する	市内福祉避難所を訪問し現状確認を行った。	○

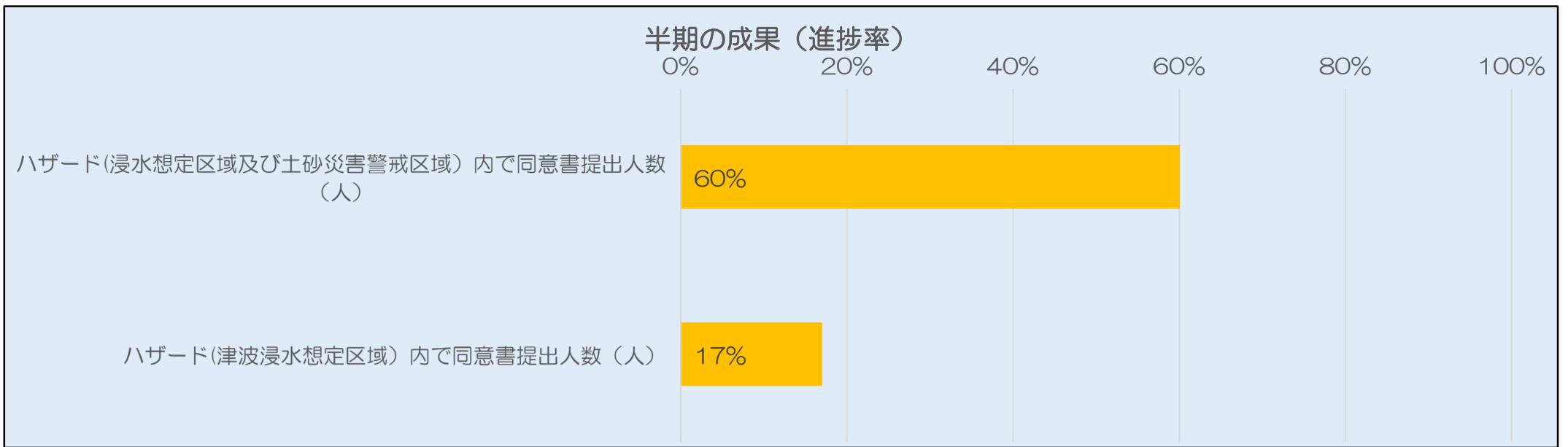
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
要支援者が制度理解を深める	同意書・個別避難計画の提出が伸びない	対象者が必要としていない個人情報の提供に関する抵抗がある	本制度の必要性について継続的に説明していく

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）		指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① ハザード(浸水想定区域及び土砂災害警戒区域) 内で同意書提出人数(人)		↑	ストック指標 成果累積型	直接成果	60	36	60%
② ハザード(津波浸水想定区域) 内で同意書提出人数(人)		↑	ストック指標 成果累積型	直接成果	96	16	17%



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

本年度、必要性が優先される「浸水想定区域（津波含）」「土砂災害警戒区域」について、直接訪問により制度の周知に努めた。その結果、対象者より一定程度の理解を頂け、理解を頂けた方については、個別避難計画及び同意書の提出を受けることが出来た（浸水・土砂区域36名/津波区域16名）。一方、制度の必要性を理解されない又は個人情報の提供に拒否的などの理由から、個別避難計画及び同意書の提出を拒否される方もあり、必要と思われる全ての方から提出を頂けていない状況。今後も引き続き制度説明等を行いながら、個別避難計画・同意書の提出を求めていく。
※人命に関わるような緊急時については、「災害時避難行動要支援者名簿」を関係機関（警察・消防・民生委員等）に提供することが出来る。
名簿内容：氏名・住所・生年月日・要介護度・障害等級 及び 地図情報

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
避難支援関係者への制度の周知を強化し、個別避難計画及び同意書の提出について、避難支援関係者（ケアマネ・民生委員・相談支援事業所等）から対象者へ声掛けをしていただく。	修正なし		避難支援関係者へ制度説明を行う際、対象者への声掛けを継続的に依頼していく。

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

「浸水想定区域（津波含）」「土砂災害警戒区域」については、個別アプローチによる制度説明を行い、それ以外の地域にお住いの方については、市報やHPによる周知、民生委員やケアマネ等関係者からの声掛け等により、対象者からの自発的な個別避難計画・同意書の提出（手上げ方式）を受ける方向で本年度部内調整を行う予定。

※國の方針等を踏まえ「優先的に避難を必要と判断した者の名簿（ハザード内居住者や手上げ方式による申請者で支援を必要と判断した者等）」「市で定める避難行動要支援者の要件に基づき抽出した者の名簿（対象者すべての名簿）」の2段階の名簿で整理している。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	R7重⑥	担当課	農林水産課	事業名	農水産物のブランド化
施策の位置づけ	施策4-1 既存産業のチャレンジを応援する 施策の方向性 (2) 農水産業のチャレンジ促進 取組 ④特産品のブランド化の推進	市長政策			

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	市が、既存生産者の経営支援を行う	ブランド化支援制度の活用相談	2事業者から相談	○
	産出	既存生産者が、市の経営支援を受けて特産品の生産を継続できている	ブランド化支援者数の増加	支援制度活用 (安重水産・山本ファーム)	○
	活動	市が特産品の六次産業化を目指す生産者の開発支援を行う	6次産業支援制度の活用相談	1事業者から相談	○
	産出	特産品を使った加工の開発がされる	6次産業支援者数の増加	支援制度活用 (新拓農園)	○

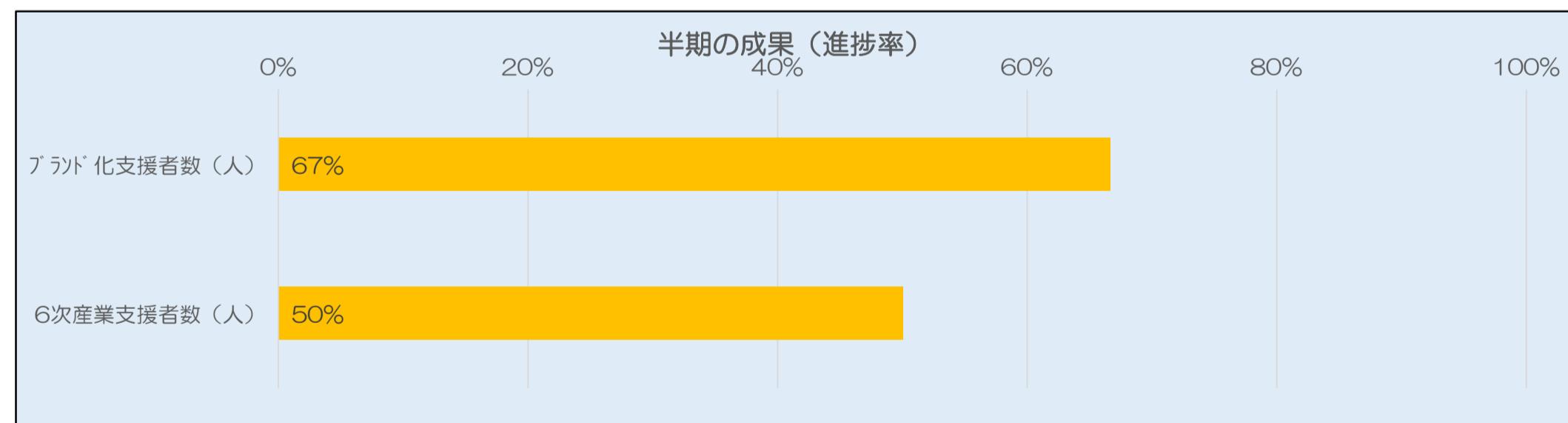
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
既存生産者が、市の経営支援を受けて特産品の生産を継続	ブランド化支援対象者・6次産業支援対象者の継続的な発掘が難しい	・小規模経営が主体である ・生産量が限られ、安定供給が困難 ・家族経営中心で生産者の規模が小さい	小規模経営や高齢化を希少性や匠の技といった強みに転換し、飼育・生産方法の差別化と観光客向けの商品展開によってブランド価値と認知度を高める。
特産品を使った加工の開発			6次産業化を図るため、収穫期にしか販売できない生鮮品ではなく、通年で販売できる加工品の開発を推奨をする

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① ブランド化支援者数（人）	↑	ストック指標 成果累積型	産出	3	2	67%
② 6次産業支援者数（人）	↑	ストック指標 成果累積型	産出	2	1	50%



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

①ブランド化支援制度：2029年度の目標値の3事業者に対し、現在2事業者が、②6次産業支援制度：2029年度の目標値の2事業者に対し、現在1事業者がそれぞれ制度を活用しており、概ね予定通りの進捗が図られている。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるために、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
ブランド化支援者数、6次産業支援者数とともに、現在のところ概ね予定どおりに進捗しており、ロジックに基づき目標達成に至る取組みを継続していく。	特になし	次年度以降	引き続き、進捗を注視すると共に、支援制度のPRについて努める

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	R7重⑦	担当課	道路建設課	事業名	(仮称) 鹿行南部道路
施策の位置づけ	施策5-1 コンパクトで安全なまちをつくる 施策の方向性 (2) 効率的・効果的なネットワークづくり 取組① 暮らしと産業活動を支える道路ネットワークづくり	市長政策			

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した产出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその产出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	(仮称) 鹿行南部道路建設促進期成同盟会総会・要望活動の開催にむけた連絡調整を行う	随時	国・茨城県関係機関、国会議員、期成同盟会内調整	<input checked="" type="radio"/>
	产出	(仮称) 鹿行南部道路建設促進期成同盟会総会、要望活動を実施する	総会の開催(1回/年) 要望活動の実施(4回/年)	総会：6/30開催 要望活動：7/24(国交大臣), 7/30(財務大臣)	<input checked="" type="radio"/>

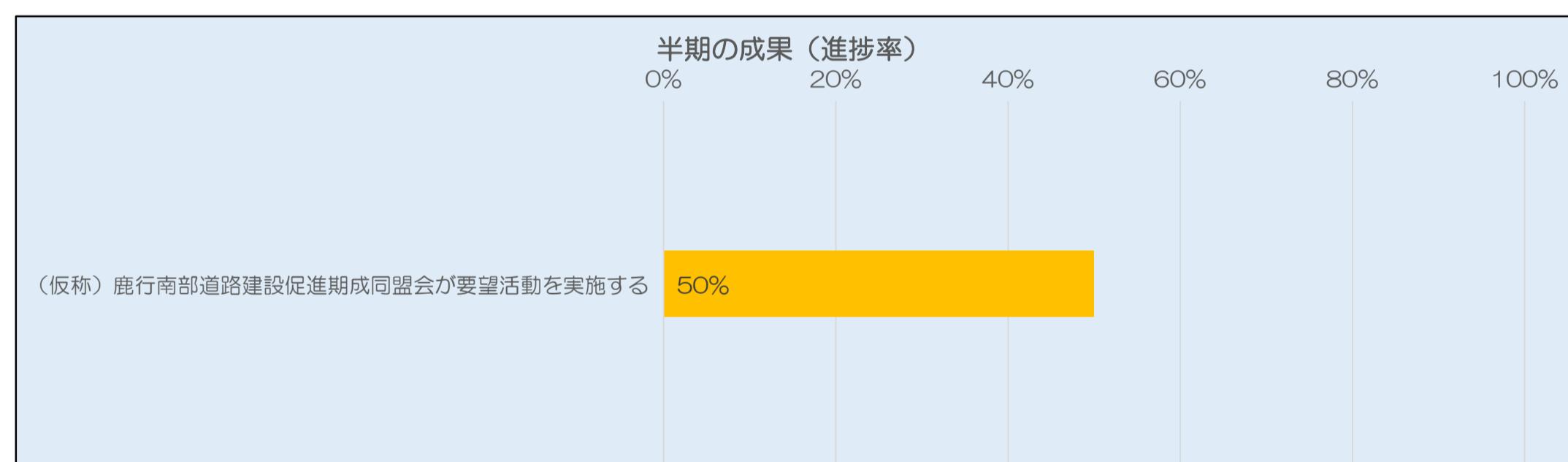
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または产出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標(単位)	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① (仮称) 鹿行南部道路建設促進期成同盟会が要望活動を実施する	↑	フロー指標 単年度増減型	产出	4回/年	2回/年	50%



ウ 成果の分析(事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する)

要望活動の実施回数は2回だが、当初の目標としていた国土交通大臣との面会、民間企業の参加に加え、財務大臣面会を果たすことができた。また、国土交通大臣には具体的に「計画段階評価の早期着手」という意向を直接伝えることができた。
--

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ (ウに記載した内容について) より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か(予定どおり進捗しているものについても記載する)

事業の見直し内容(具体的に記載すること)	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
要望活動の結果、計画段階評価の着手が具体性を増したことから、ロジックモデルに明記する	「計画段階評価の着手」を加える	今年度中	

オ その他、本事業に関して共有すべき事項(政策・財政・人事への意見等を含む)

要望活動の調整に関しては、連絡調整に相当の時間を要するため、専属の人員配置が必要である。

<(仮称) 鹿行南部道路 国事業化概略フロー>

- ①基本方針決定(令和6年6月24日決定)
- ②計画段階評価の着手(市として、早期着手が当面の目標)
- ③計画段階評価及び概略計画の決定
- ④都市計画決定・環境アセスメント
- ⑤新規事業採択評価

] 2~3年

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	R7重⑧	担当課	施設管理課	事業名	市道の維持管理
施策の位置づけ	施策5－1 コンパクトで安全なまちをつくる 施策の方向性 (2) 効率的・効果的なネットワークづくり 取組① 暮らしと産業活動を支える道路ネットワークづくり	市長政策			

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した产出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 市職員が電話、窓口での要望受付を適切かつ丁寧に行う	要望の精査	振り分けた結果受理した要望：690件	○	
	産出 要望者が市の道路維持方針について理解を深めている	要望内容の難易度への理解	理解度：100%	○	
	活動 市がロードマネージャーを運用するとともにパトロールを実施する	システム搭載車両による市内運航	市道カバー率60%	○	
	産出 市が道路損傷箇所を早期に発見している	記録データの精査	破損発見数3.3箇所/日	○	
	活動 市が直接補修工事を実施する	市職員・現業員による直営作業実施	職員十現業員：94件 (参考：維持工事128件)	○	
	産出 市の道路補修委託費が減少していく	市職員・現業員による直営作業の割合を増やす	直営作業割合：42% (94件/222件)	○	

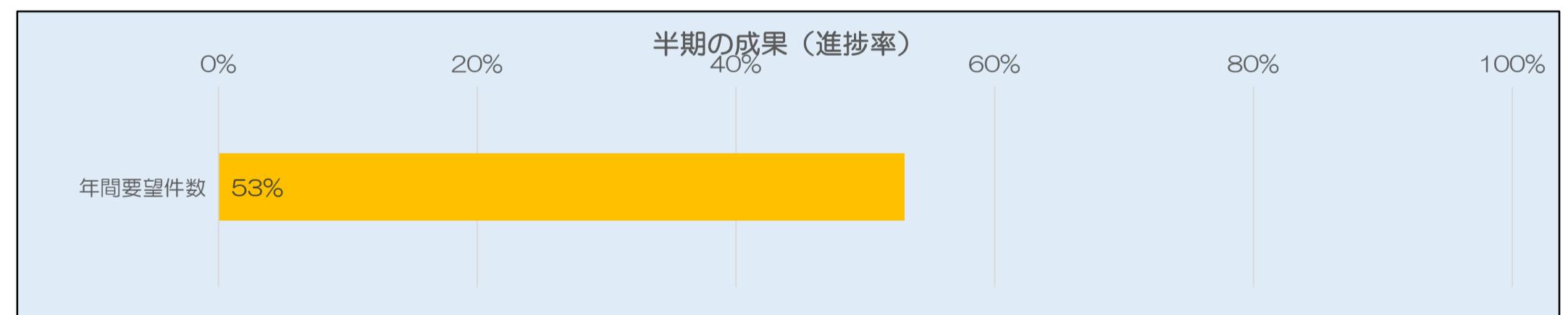
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
① 年間要望件数	↓	フロー指標 单年度増減型	中間成果	1,300	690	53%



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

9月末までの要望件数は690件で、年換算すると1,380件となり、ほぼ予定通り進捗している。これは、ロードマネージャーや日常業務中に発見した道路破損箇所等を、市民から要望が上がる前に職員による直営作業で対応したり、市民の相談に対し適切かつ丁寧な対応をしたことで、市の道路維持方針について理解を深めて、その結果要望件数が減少したと考える。
ただし、事業全体としては、市道新設や県道の移管、開発行為に伴う帰属などにより、管理すべき市道は年々増加していること、また、限られた財源を有効に活用するため、緊急度などにより優先順位を付けた結果、先延ばしがざるを得なかった現場について、順次補修時期を迎えることから、市道の補修箇所も増加傾向にある。そのため、補修工事の担当職員及び予算の拡充が必要である。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項

オ その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

上記「ウ 成果の分析」のほか、職員による直営作業や丁寧な電話対応には、必然的に業務量の増加が伴うことから、組織体制の強化（人員増）は必要である。

既存事業進捗確認シート（中間面談）

No.	R7重⑨	担当課	総務就学課	事業名	学校規模の適正化の推進・学校の統合
施策の位置づけ	施策2－1 未来を担う人材「鹿嶋っ子」を育む 施策の方向性 (1) たくましく柔軟な子どもを育む学校教育取組 (3) 生きる力を育む教育の推進	市長政策			

【プロセス評価】ロジックモデルのとおりに活動し、意図した産出が現出しているか？

事業実施状況	ロジックモデル「活動」「産出」の状況 活動とその産出は、1セットで記載すること		評価年度の実施予定	半期の実績	予定：実績
	活動	産出			
	活動 学校の適正規模について協議し、学校規模適正化基準を策定する。	産出 適正化基準に該当する2校（豊津、中野西）の関係者で学校規模適正化検討委員会を設置し協議する。	R6年度に協議、策定済み	実績なし	○
			検討委員会の開催	1回開催	×

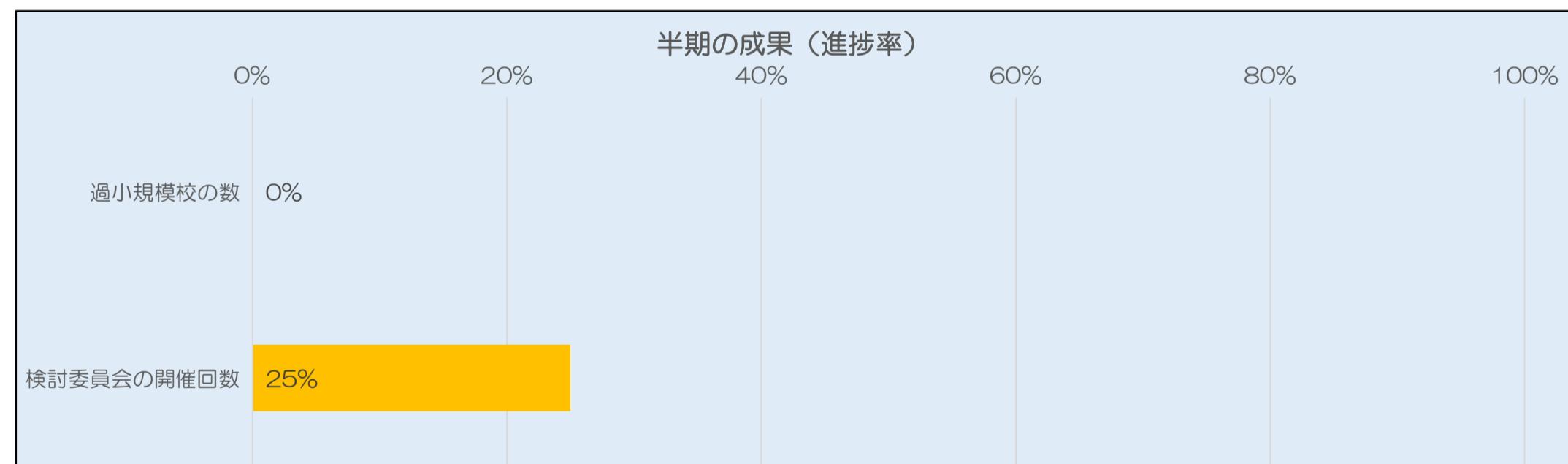
ア 事業実施状況のうち、「予定どおり進捗しなかった」、「進捗させにくかった」、「改善するとより良くなる」項目とその理由・対処方法

活動または産出の項目	どういう状況？	なぜ？	どうするのか？
適正化基準に該当する2校（豊津小、中野西小）の関係者で学校規模適正化検討委員会を設置し協議する。	年4回の開催予定だが、半期で1回しか開催していない。	学校ごとの分科会での協議が難航しているため	何が原因で協議がスムーズにいかないかを分析し、協議のフォローをしていく

【アウトカム／インパクト評価】ロジックモデルで設定した成果指標の動向はどうなっているか。事業で成果は上がっているのか。

イ 半期の成果

	成果指標（単位）	指標の方向性	指標の種類	ロジックモデルの位置づけ	目標値	半期の実績	進捗率
①	過小規模校の数	→	フロー指標 単年度増減型	最終成果	0	2	0%
②	検討委員会の開催回数	↑	フロー指標 単年度増減型	産出	4	1	25%



ウ 成果の分析（事業全体として予定どおり進捗しているのか？していないのか？その理由も記載する）

- ・検討委員会、年4回開催の実施計画に対して、半期で1回しか開催できていないので、予定どおり進捗していない。
- ・各学校ごとに設置している分科会での協議が難航しているため、検討委員会を計画通りに開催できない。

【セオリー評価】目標と実績を比較して、事業内容・ロジックモデルをどのように修正するのか？

エ （ウに記載した内容について）より成果を上げるため、今後どのような見直しが必要か（予定どおり進捗しているものについても記載する）

事業の見直し内容（具体的に記載すること）	ロジックモデルの修正内容	見直し時期	見直しに必要な事項
R7年度で検討委員会の主な議題がほぼ終わるため、R8年度は開催回数を少なくする。	目標値を「3回／年」	次年度以降	予算・人員共に現状のまま問題なし。
学校規模適正化検討委員会後のプロセスが抜けていたため、教育委員会事務局で整理する項目をロジックモデルに追加する。	・「産出」の1つ目の次に協議する項目の枠を2つ（統合時期、諸課題）追加する。 ・「指標」に項目を追加する。	今年度中	予算・人員共に現状のまま問題なし。

中間成果の表現(文言・言い回し)を修正した。	「多様な人間関係による学校生活から得られる社会性の向上が図られる」を「多様な人間関係による学校生活から社会性の向上が図られる」と修正する。	今年度中	予算・人員共に現状のままで問題なし。
新たな中間成果を一項目追加した。	「教職員は適正な児童数で授業を実施する」を追加する。	今年度中	予算・人員共に現状のままで問題なし。
中間成果のうち一項目を後ろにずらし、内容の順番を整理した。	「学校(教職員は)～効果的に実践する」を中間成果の最後に表記した。	今年度中	予算・人員共に現状のままで問題なし。

才 その他、本事業に関して共有すべき事項（政策・財政・人事への意見等を含む）

統合後、児童の学校生活が滞りなく送れるように、財政的な支援（例：通学手段の補助、体操服購入補助など）が必要である。